

コード	103020120
記入日	H23.6.1

事務事業途中評価表

課コード	118
課名	土木課
課長名	石司 貴英
担当者	坂田 満

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	町道青方船崎線改良事業
----------	-------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	8
施策コード	103	施策名称	しまを支える交通基盤づくり	項コード	2
基本事業コード	10302	基本事業名称	安全で快適な道路整備	目コード	3
事務事業コード	1030201	事務事業名称	単独事業費(道路)	細目コード	418
関連計画	新上五島町振興計画		法令・条例規則等	道路法、道路構造令	

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標							
(対象1)	新上五島町が管理する道路の利用者	(対象指標1) 交通量(車)300台							
(対象2)		(対象指標2)							
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率(上段：全体、下段：評価年度)							
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
(全体計画) ・改良延長 L = 128 m ・幅員 W = 4.0 (5.0) m ・全体事業費 21,200 千円	(平成22年度) ・改良延長 L = 0 (108) m ・幅員 W = 4.0 (5.0) m ・事業費 9,930 千円 ・排水工 L = 117 m ・公民館解体 1 棟	改良延長	0m	0%	改良延長+計画延長		平成23年度		
		改良延長	0 (108) m	0%			平成22年度		
		① (達成率分析)	本年度の計画延長は0(95)mとしていたが排水工を施工し改良延長 L = 0 (108) mとなった。						
				② (達成率分析)					
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率(上段：全体、下段：評価年度)							
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)			
・本路線は、青方地区と船崎地区を結ぶ基幹的な道路であるが、幅員が狭小で急カーブもあり路面の劣化が著しい状況である。本路線を改良することにより交通の安全確保及び地域の活性化を図る。		進捗率	9,930千円	47.0%	事業費+計画事業費	平成23年度			
		進捗率	9,930千円	97%		平成22年度			
		① (達成率分析)	事業は計画どおり進んでいる。						
				② (達成率分析)					

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① m	128	0(108)	0	0(95)	0(108)	128				
	②										
成果指標	① %	100	46	0	48	46	53				
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	22,800	10,630		10,900	10,630	11,900				
直接事業費 A	千円	21,400	9,930		10,200	9,930	11,200				
人件費 B	千円	1,400	700		700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円	20,100	9,400		9,500	9,400	10,600			
	その他	千円									
一般財源	千円	2,700	1,230		1,400	1,230	1,300				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	道路管理者である町が行うべきものである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	道路の安全性・利便性については、普遍的なものであり町が行う必要がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	住民生活の安全性・利便性を向上させるための事業であり適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	ほぼ計画どおり事業が進捗しているので特別向上させる必要はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	道路の安全性及び利便性の確保ができない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一の事業であり、他の事業との整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており削減できない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現在の人員を削減することは事業の推進上できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	道路管理者である町が行うべきもので受益者負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	住民の利便性及び道路の安全性を向上させるための事業であり有効である。
		効率性	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており、今のところ経費を削減することはできない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	住民の安全で安心な生活環境の確保と整備、利便性を向上させるため計画どおり事業を進めること。
		効率性	事業経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。